

日本映像学会第 52回全国大会 愛知淑徳大学

2026/05/30(土) 12:00 受付開始 (1号棟1階 多目的ホール)

| | | | | | | |
|--------------------------|--|---|--|--|---|-----------------------------------|
| 12:55 - 13:00 | 開会 (8号棟1階 811教室) | | | | | ARTEC 関連資料展示 8号棟 4階ギャラリー |
| 13:00 - 16:00 | シンポジウム 「名古屋国際ピエンナーレARTECの記録からアート&テクノロジーの現在地を問う——artport、MEDIA SELECTを経て」 (8号棟1階 811教室) | | | | | |
| | A 112教室 | B 113教室 | C 132教室 | D 133教室 | E 135教室 | |
| ① 16:20 - 16:50 | A1-1 鈴木 浩之 先進レーザ衛星「だいち4号」を用いた地上絵アニメーションの制作 | B1-1 栗原 康行 第20回アジア競技大会周知に関する動画コンテンツの制作とSNSなどの波及効果についての実装研究 | C1-1 李 嘉倩 高技術時代の海外SFドラマにおける登場人物への視聴者エンゲージメントと道徳発達 | D1-1 野浪 雄貴 昭和初期の映画興行における上映事故と安全規制 | E1-1 水野 勝仁 「映像そのもの」という何かを感じ始める——古澤龍・大原崇嘉の映像とともに生じる体験を内部作用として記述する | |
| ② 17:00 - 17:30 | A1-2 萩原 由加里 瀬尾光世の戦後における映像制作活動の分析 | B1-2 蔣 雯 映画演技の再定義：教育と制作の現場から見た「詩的身体」の試み | C1-2 鳥山 正晴 リチャード・リンクレイターの『ピフォア』シリーズとノスタルジア映画～記憶の共有と、ノスタルジーの再構築～ | D1-2 ザーケリー・ゴドラトッラー チェンジ・エージェントとしての弁士の役割と日本映画の発展——イノベーション普及論に基づく分析とイラン映画との比較研究—— | E1-2 瀧 健太郎 クシュトフ・ヴォディチコの2000年代分断を越えるアート・プロジェクト | |
| 17:50 - 20:00 | 懇親会 (緑風館) | | | | | |

2026/05/31(日) 9:15 受付開始 (1号棟1階 多目的ホール)

| | | | | | | |
|--------------------------|--|---|--|---|--|-----------------------------------|
| | A 112教室 | B 113教室 | C 132教室 | D 133教室 | E 135教室 | ARTEC 関連資料展示 8号棟 4階ギャラリー |
| ③ 10:00 - 10:30 | A2-1 須藤 信 動画生成AIによる絵画的スタイルの生成に関する研究 | B2-1 田中 晋平 野田真吉のイメージ論と自己変容——アクチュアリティの創造的劇化から映像民俗学へ—— | C2-1 行田 洋斗 『ゼザンヌ』の方法——ストロープ=ユイレのエッセイ映画 | D2-1 匡 泉森 小津安二郎作品における劇中音楽と視線に関する考察 | E2-1 池田 泰教 芸術資料としてのVR (2)——鑑賞者主観情報と時空間データによるVRアーカイブシステム—— | |
| ④ 10:40 - 11:10 | A2-2 劉 茜誌 人工知能による映像芸術の可能性——質感の表現について—— | B2-2 万里 「肖像」と「風景」の融合——「語らない作家」工藤敏樹によるヒューマンドキュメンタリーの再構築 | C2-2 原田 麻衣 『ピアニストを撃て』(1961)の「文体」論——セリ・ノワールの翻案をめぐる | D2-2 森宗 厚子 日本におけるスクリプター第一世代の研究——松竹浦田・坂井羊子について | E2-2 前川 道博 端山真明のメディア論考——作曲からコンピュータアート、ネットムセイオンへ—— | |
| ⑤ 11:20 - 11:50 | A2-3 ブルベス・ジェローム 生成AIを用いた映像教育の実験的試み：葛藤・可能性・限界 | B2-3 洞ヶ瀬 真人 『バルチザン前史』における「日誌編年史的な時間」——ドキュメンタリー映像における時間編集の倫理 | C2-3 神田 育也 映画内部から制度へ——『8 1/2』における自己反省性の拡張—— | D2-3 木下 千花 映画検閲と作家性——内田吐夢監督『警察官』(1933)と内務省警保局 | E2-3 常石 史子 映画の保存修復における再構築(リコンストラクション)の倫理——ドイツ語圏を中心に | |
| 11:50 - 14:50 昼休み | | 12:00 - 13:00 *新旧合同理事会 (1号棟1階 123教室) 13:10 - 14:40 第53回通常総会 (8号棟1階 811教室 ※昼食を取りながらの参加も可) | | | | |
| ⑥ 14:50 - 15:20 | A3-1 橋本 典久 和名『鷲さ盤』の誕生仮説——出島における購入記録と名称混乱の背景 | B3-1 北市 記子 「ポートピア81」におけるビデオアート作品の様相 | C3-1 本多 由佳 イム・グオンテクと日本——日本人表象の視点から—— | D3-1 長尾 優希 世界を呪う——Jホラーにおける遅延 | E3-1 猪鼻 秀一 Mina「Circle of life」Covers | |
| ⑦ 15:30 - 16:00 | A3-2 李 慶琦 最小要素で映像作品はいかに成立するか——光と時間から再考する『The Flicker』 | B3-2 原口 寛子 母の眼差しを再生する——出光真子『英雄ちゃん、ママよ』が映す日本の家族と「ホームビデオ」 | C3-2 朴 志元 「馬鹿」の視点から見る韓国社会——1970年代から1980年代韓国映画に描かれた聖なる患者 | D3-2 渡邊 ゆき 現代日本映画における「視線」の考察——グローバル市場と自己表象、『国宝』(2025年)を事例に | E3-2 周 業欣 『平和ってなに——戦後80年土崎空襲から平和を問う——』(製作年2025年) | |
| ⑧ 16:10 - 16:40 | A3-3 鈴木 清重 映像心理学に基づく映像教育の課題——事象知覚の研究成果に基づく実践例より—— | | C3-3 戴 卉 小栗康平の『眠る男』における他者表象 | D3-3 王 子易 「戦後民主主義映画」の特徴とそのジャンルの成立——今井正と木下恵介を中心に—— | E3-3 伊東 宣明 『人の写真』エクササイズを通じて不可視の人々を立ち上がらせる | |